

「健康経営?ブームに惑わされない」

(株)健康企業 代表・医師・専門コンサルタント 亀田高志

従業員を人的資本と捉え、健康投資によって業績アップと企業価値の向上を目指す健康経営は、従来の健康管理活動をはるかに超えて注目を集め、持てはやされています。ホワイト500等と呼ばれる顕彰制度への応募が多数集まり、官民一体の取り組みも喧伝されています。健康経営の商業化、ビジネス化が加速し、その市場規模は来年には1兆6700億円に及ぶとの試算もあります。ところが健康経営の原典とされるアメリカにおける **Healthy Company** や **Healthy Corporation** と呼ばれる考え方が人事施策中心であることは知られていません。業績アップや企業価値向上を実現するのは従業員ですから、敬意を持って遇し、経営層が経営状況や判断を隠さず伝え、失敗しても学習することを奨励し、キャリアを支援し、パワハラや過重労働を取り除き、個人の事情を配慮し、多様性を尊重することが謳われています。そのような社風や文化によって、従業員は忠誠心を持って定着し、創意工夫を重ね、外部環境の変化にも対処するというのが、原典の示すところですが、もしも職場で健康経営が話題となったら、単なるメタボやがんへの対策として片付けることなく、是非、経営層の意思に基づく人事施策の見直しのチャンスとして捉えるお勧めしたいと思います。

※1 健康経営?は、NPO 法人健康経営研究会の登録商標です。

※2 市場規模の試算；株式会社シード・プランニングによる調査より引用